

## 「FACTFULNESS (ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣」

ハンス・ロスリング 他 (著)

単行本, 400ページ, ¥1,980-  
(日経BP, 2019年1月11日)

2020年10月某日の夕刻, 某ニュースサイトに着目すると, 「都内において, 本日新たに新型コロナウイルスに感染した人は〇〇人, △日ぶりに□□人を下回り(上回り)しました。……」と, もはやこの10か月ですっかり定例化された記事がアップされます。そして程なくその記事のコメント欄は様々なコメントで賑わいます。

私は感染症の専門家ではありませんので詳細は分かりませんが, 一般的にウイルス性疾患の根本的な解決策は, 抗ウイルス薬やワクチンの開発, 集団免疫の獲得などに限られるとされています。つまり, 現時点では当分の間, 感染予防を徹底しながら生活をするしかない中, 日々の感染者数をピンポイントで拾い読みしてもあまり意味がありません。そもそも, 1日当りの感染者といっても検査の人数によっても変わってきますし, 比較対象によって多いか, 少ないかの評価も違います。また, 例えば同じ数十人が新規感染したとしても, 大半が病院内などで発生したクラスターなのか, 感染源が点在しているかによっても数字の意味合いが変わります。さらに, 一定期間の経時変化に着目した場合, 一過性の増加なのか, それとも継続的に増加あるいは減少しているのか, という判断も重要です。このように, 「本日の感染者数」という1つの数字であっても, 視点や解析方法, アウトプットの仕方により様々な解釈ができ, 解釈を誤ると全く別の印象を与えてしまうことになります。

本書はまさにこういった数値やデータを正しく見る方法を, 人口の分布, 生活水準, 教育水準, 環境問題, 国際問題など, 私たちの生活にかかわりのある問題を取り上げ, 我々が普段感覚的に認識しているイメージと, 実際のデータが大きくかけ離れている事例を紹介しています。そして, 「なぜイメージと実際のデータとの間にギャップが生じるのか?」, 「こういったギャップに惑わされない為にはどうすればいいのか?」を10のセクションに分けて解説

しています。一例を挙げると, 「ネガティブに考えがち→悪いニュースは広まりやすいから」, 「直線的増加または減少を想像しがち→数量の経時変化のごく一部にしか着目していないから」, 「過大・過小評価しがち→数字を比較していない, 割合で考えていないから」など, 学術分野は勿論, 日常生活でも我々が一般的に行っている誤りが沢山あります。

情報にあふれた現代社会だからこそ, 必要な情報を取捨選択し, なおかつ正しく解釈しなければなりません。情報化社会の荒海を航海する際の羅針盤といっても過言ではない本書, 是非お読みください。

(フロンティアフーズ株式会社 技術部 村田 真一郎)

